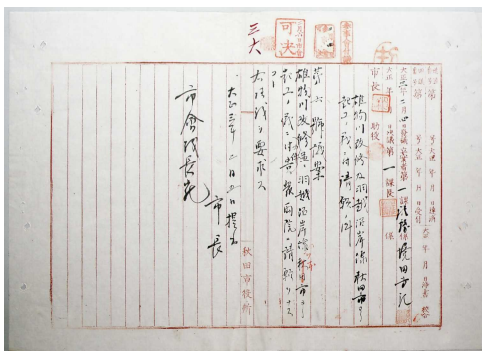


街を変えた雄物川放水路

大正6年に着工した「雄物川放水路事業」は、通水までに22年の歳月と延べ200万人を投入して完成した大事業でした。この事業の完成により、市民は雄物川を利用しながらも、長い間苦しめられた水害からようやく解放されることとなりました。

また、放水路の開削により掘り出された大量の土砂は、低湿地であった茨島地区の埋め立てに用いられ、新たに茨島工業地帯が生まれることになりました。さらに、船舶の航行による工業地帯への運輸の利便を図るため、茨島と土崎港を結ぶ秋田運河の建設も雄物川の旧流路を整備する形で行われました。

「雄物川放水路事業」は、産業都市秋田市の基盤を作り上げたともいえる大事業だったのです。



「大正3年 市議会事務簿」より

左の文書は、大正3年2月の市会において、貴族院と衆議院に対し雄物川改修の請願について議決を求めた議案の書類です。

「可決」の印が見えます。このあと請願が行われ、大正4年の帝国特別議会において雄物川改修工事は、内務省と秋田県の直営で行われることが決まりました。

雄物川改修工事（雄物川放水路）の主な内容は、新屋地先において雄物川を築堤によって締切り、県道を横断し新屋浜までの約2 kmの新河川を掘削し、洪水および平水を、まっすぐ早く海に放流しようとするものです。これにより、支流への逆流による洪水が大きく緩和され、市民は安心して暮らせるようになりました。

昭和13年4月27日、市民が待ちに待った雄物川放水路はようやく通水の運びとなりました。この日行われた通水爆破は、4万人の市民が見守る中で行われたとの記録があります。大正6年の着工から22年、雄物川改修工事完成の瞬間です。



「雄物川放水路計画図」